

編集部＝竹中光子、中務佐代子、上溝敏子、飯田憲三 knziid@gmail.com 090-6665-3750

## トピックス できごとやニュース

今回4頁です

○1年間休講の電話連絡 「来年4月再開」につき、講座生の皆様にスタッフが電話連絡しました。

全員の方から「了解する」とのお返事を頂き、講座関係者一同ホッとしました。有難うございます！

○部会活動9月再開予定；コロナ感染症予防対応で部会活動休止期間を8月まで延長します。

○MONTHLY LETTERに衣替え

発行期間が長期になりますので、WEEKLY LETTERは MONTHLY LETTERに変更させていただきます。

移行期間として当面、月二回（第2、第4水曜日）発行します。→次回は5/27発行

「ひと」コーナーは「十人十色ひろば」に。講座生・スタッフなど多くの方の登場を目指します。

「巣ごもり便り」は「しぜん訪ねて」に。ひとり又は少数での自然探訪を紹介します。

## 十人十色ひろば

今回は15期講座スタッフ上溝さん



上溝敏子さん 15期講座スタッフ 最寄り駅＝河内長野

面白(おもしろ)いこと探しのつもりで自然カレッジ13期生に仲間入りしました。

はまったのは、どっこい生きて回っている自然界、知らないことの多さと深さに驚きの連続だったから。

そして「今更聴けない初步的なこと・根源的なこと」を遠慮なく聞くことができ、それに講師の先生が丁寧に答えてくださるから。（実に楽しそうに）

好奇心を持ったが勝ち！ 皆さん也大いに楽しんでください。

編集部

## 十人十色ひろば

気楽にみんなが発信！

「文＋写真」投稿待っています。

文＝自己紹介、巣ごもり報告、趣味、カレッジへの期待、思い出、体験談なんでもOK！200字程度。

写真＝正面、横顔、何かしてるところ、自慢の笑顔、自慢の品、大好きな花、好きな景色など

## しぜん訪ねて

おひさまを浴びて運動しよう！

文化財として“自然”を観察しよう！

巣ごもり中の暇に任せ“天然記念物”について調べてみた。（文化庁及び大阪府HP等参照）

近畿2府4県に特別天然記念物は「春日山原始林（奈良市）」と「長岡のゲンジボタル及びその発生地（米原市）」の2件がある。「春日山原始林」についてはカレッジの講座がある。

国指定天然記念物は76件あり、大阪府内では

- ①和泉葛城山ブナ林・・・カレッジの講座あり
- ②薫蓋クス（門真市）・・・大阪府最大巨樹
- ③野間の大ケヤキ（能勢町）・・・西日本最大のケヤキの巨樹
- ④妙国寺のソテツ（堺市）・・・樹高5mの大蘇鉄
- ⑤箕面山のサル生息地 の5件が指定されている。

一方、大阪府指定天然記念物は78件あり、すべて植物（木）である。クスノキが21件と圧倒的に多く、イチョウが9件で続くが、35種類の様々な木々が指定されている。



延命寺 夕照もみじ

百舌鳥八幡宮/クス、延命寺/夕照もみじ、弘川寺/カイドウ等々、馴染みのものが並ぶ一方、高山住吉神社（能勢町）/オヒョウ、光善寺(枚方市)/サイカチ、道明寺/モクゲンジ等、珍しい木も沢山あり興味深い。天然記念物の7割は寺社境内にあり、身近にみられる。コロナが落ち着いたら寺社等を訪ね文化財として“自然”を見つめてみませんか。（TM）

## 野の花このごろ

植物部会MKさんのお便り

今回は身近な帰化植物のお話



ハルジオン

この季節、芝生や道端の草地では一面に草花のお花畑が出来上がります。

シロツメクサ（クローバ）に混じってムラサキツメクサやコメツブツメクサ等のマメ科の花が咲き競い、それに**ブタナ**、ニガナ、ハナニガナ等のキク科の黄色と**ニワゼキショウ**の紅紫も加わり一段と華やかになります。

また樹林下では、可愛らしい小さな花のアメリカフウロやヤブジラミの群生が続く、ここでもキク科のニガナやジシバリ、オニタビラコの黄色に**ハルジオン**の淡紅紫色を添えています。

これらの花はごく身近な雑草に近い草花で、余り好かれていない**帰化植物がほとんど**ですが、これだけ咲き揃うとちょっと見方が変わってきませんか。



ニワゼキショウ



ブタナ

## 野鳥このごろ

ひとり探鳥会を続けるKTさんのお便り

今週見かけた野鳥です

4月も無事に一人野鳥部会終了です。4月は**カワラヒワ**と**ホオジロ**に沢山出会えました。辛うじて写真が撮れたものを含めると25種撮れました。ホオジロの正面は隈取りのようです。**カワガラス**は珍しく陸にいました。

**カワセミ**はようやく止まっている姿に出会いました。

一人では鳥の声が聞こえても名前判らないし、聞いたことがあっても何やったかな？と疑問符。尋ねる人が傍にいないですからね。

皆様とご一緒出来る日を楽しみに5月も頑張ります。



ホオジロ



カワガラス

カワガラス  
羽根を震わ  
せ乾かす



桜樹のコゲラ



カワセミ 意外によく会える



シジュウカラ

シジュウカラは花が散った桜の「がく」をつついてる？

## 私のイチオシ講座

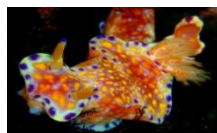
カレッジ講座の中でイチオシの講座

今回はYSさんより

私のイチオシはウミウシ観察（加太・城ヶ崎海岸）。ウミウシとは貝殻が退化した巻き貝の仲間で、加太には約150種生息しています。

図鑑を手に、岩場の潮溜まりで石の裏を探します。小さくカラフルなウミウシが見つかったら、大歓声。

「海の宝石」と呼ばれる不思議な生物に会えます。



加太・城ヶ崎海岸 ウミウシ観察



ミカンの木

花芽

新芽

ミカンの木もすっかり目覚めました。新芽、花芽が確実に育っています。やがて花が咲き、甘い香りが漂い、ミカンの花咲く丘になります。



ノイバラ

ミカンの木

ミカンの木の周りは、草ボウボウ。横を見れば、ノイバラが勢力を拡大し木に向かって伸びてきました。やがてこれに葛が巻き付いてミカンの木を襲います。



まるでジャングル

ゼンマイ ワラビ スギナ

楽しくワラビを採った畑では、シダ植物となったワラビ、ゼンマイ、スギナと諸々の草でミニジャングル状態。



お昼休憩でくつろぎます。里地・里山は色々な緑色で描かれた絵画のようです。背景は青い空。爽やかな風に吹かれ、絵を眺めるのは、まさに至福の時です。  
里地・里山あそびは素晴らしい！（MA）

編集部

ミカンの花、次号でお届けできるかな

ワンダーワールド

「いのちの営み探検部会」の活動／選

今回はAFさんより

自家受粉を避ける巧みな戦略：ホタルブクロ（A.F）

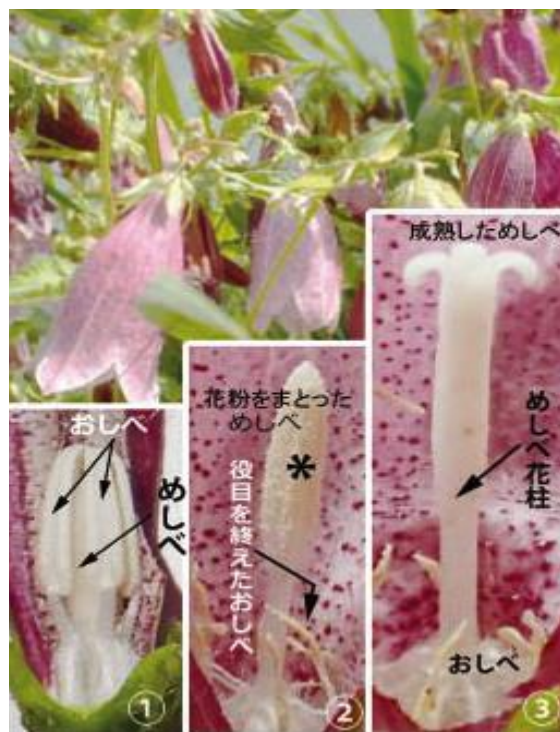
これからの季節、野山を歩くと、釣り鐘状に膨らんだホタルブクロに出会う。楚々としてうつむき加減。素朴な感じが愛らしい。しかし花の内部ではおしべやめしべが巧みに働き、**自家受粉を避け、他家受粉を行う為の巧妙な仕掛け**が進行しています。花の中を覗いてみます。

①つぼみの頃：おしべが先に成熟（雄性期）。めしべを抱くようにして伸び、めしべ花柱に花粉を着ける。

②開花初期：葯から出た花粉はめしべ側面にしっかり付着。めしべには細毛が密生し花粉がまとわりつくがめしべは未熟で、自らの花粉の受け入れはできない。一方、おしべは役目を終えてしなびる。この時期にやってきたハナバチは花に潜り込み、めしべ側面から花粉を受け取り、次に別のホタルブクロへと向かう。

③開花後期：めしべ成熟。花粉受け入れ準備完了。ハナバチが他のホタルブクロより運び込んだ花粉はめしべにつき、柱頭より花粉管をのばす。活きのいい精細胞が先に胚珠内卵細胞に辿りつき、受精成功。

優秀な子孫を残すことができる(雌性期)。この時花柱についていた細毛は落下、同時に自己の花粉も落下し、自家受粉は避けることができる。



①おしべが成熟 ②花柱に花粉が付着  
③めしべ成熟



花の内部。

おしべ、めしべの成熟過程

補足：ポリネーターの選択：ハナバチの仲間はポリネーターとして人気もの。個体ごとに蜜や花粉を集める植物の種類をきめている（定花性）。これによって同種の花に効率よく花粉を送り届けることが可能。花は他の虫を排除し、ハナバチに気に入られるような花の形に特化：ホタルブクロは下向き、袋状の形で、潜り込むことが得意なハナバチを呼び込み、一方、多くの虫は仰向け状態で蜜を吸うことが苦手。ホタルブクロ内に入り込めない。

日本の夜の文化を代表する歓楽街、京都・祇園。今はコロナ禍で完全に灯が消えてしまっているが、一日も早い復活を祈りたい。実は小生はお茶屋に行ったことがない。もう将来も行く機会はないであろう。残念だ。

ここにはお茶屋でつくる祇園甲部組合という組織があり、**季刊の雑誌「ぎをん」**を、なんと60年間も発行している。表紙の題字は歌人の吉井勇の筆になる。その編集者に頼まれ、最新号に歴史関係の話を寄稿した。大阪の皆さんは読む機会がないので、ここに内容を紹介したい。

### 薩長同盟締結地の謎

発端は図録のごく簡単な記述だった。「薩長同盟が締結された（京都市の）薩摩藩御花畑屋敷は、近年場所が判明した」というもの。あれほど歴史上の有名な舞台が忘れ去られて、最近になってわかるとは、不思議なこともあるものだ。その謎を知りたいと、追跡を始めた。

図録は平成30年のNHK大河ドラマ「西郷どん」に関連した特別展の公式ガイドブックである。筆者は郷里の鹿児島で発行されている**歴史論集「大隅」**に例年、鹿児島がらみの歴史論文を発表しており、翌年のテーマに、それを選んだ。

調べると、その場所を突き止めたのは京都市に住む**歴史家の原田良子**さんと判明、詳しい話を聞くことができた。経緯はこうだ。

――薩長同盟が結ばれたのは、**薩摩藩家老・小松帯刀**（たてわき）が住んでいた**近衛家別邸の「御花畑」**と呼ばれる屋敷だった。それは室町頭という場所とされていたものの、正確な場所がわからなくなっていた。そこで平成27年から京都府立総合資料館（現京都学・歴彩館）に連日通い膨大な当時の文書を調査。半年後に明治4年の行政文書を発見して、その屋敷が現在の上記区森之木町にあったことを突き止めた――というのだ。

「見つけた時は手が震えました。当時そこに水路が流れ、水車があったと西郷隆盛の文書に書かれていたのが決め手になりました」と原田さん。

一帯を歩いた。地下鉄烏丸線鞍馬口駅1番出口を出ると、すぐ西側が森之木町。雑貨屋や衣料品店、中華料理屋、京野菜の店、電器店などの店舗と木造の民家が軒を連ねており、典型的な京の下町だ。烏丸通は別にして、室町通や鞍馬口通は昔ながらの狭さで、車が一台通れるほどしかない。烏丸通には全国高校駅伝男子第一中継所の標識も。

### 「ぎをん」最新号



一角に「**小松帯刀寓居跡**」「**薩長同盟所縁之地**」と刻まれた石碑が建てられている。原田さんの発見を受けて民間団体が平成29年に建立した。近くには同盟の主役の4人、薩摩側の小松と西郷、長州側の木戸孝允、それに協議に立ち合い、会談を成功に導いた坂本龍馬の写真を入れた説明板もあり、訪れる歴史ファンも多いようだ。

同盟については、今は同志社大学今出川校地になっている薩摩藩邸・二本松屋敷で結ばれたという誤った説が歴史の本などで散見されている。

### 小松帯刀邸跡にある説明版

事実、前記の図録でも「従来、同盟が結ばれたのは、二本松屋敷であるとされてきた」と記している。だが、戦前発行の鹿児島県史など権威ある資料は「小松邸」と明記。事前の交渉が二本松屋敷で行われたことや、小松邸が正式な藩邸でなかったことなどから誤った説が流布したようである。

「大隅」には、その追跡結果を中心に、京都と大阪にあった薩摩藩の7か所の藩邸や蔵屋敷跡の現状をまとめた。明治維新から令和2年で152年。京の町にはまだまだ「謎」が隠されているのではと思う次第である。（渡口行雄）